

高齢者の文字情報における講座（要約筆記付）

【支援金確定額：58,204円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月10日

■どのような活動をしている団体ですか？

人生の途上で失聴した人や難聴になった人たちの福祉を目指し活動している団体です。特に音声会話が成り立たなくなった喪失感から、孤立しがちな中途失聴者・難聴者にコミュニケーション方法の獲得を促す月例会や、社会の理解を求める啓蒙活動を行っています。また、コミュニケーション支援用具の筆記ボードの作製、聞こえのシンボルマークの普及にも力を入れています。

更に要約筆記者の全国組織である「全国要約筆記問題研究会・千葉支部」と共に文字での情報提供等、協働での取り組み活動を積極的に展開しています。



OHPで文字情報のある交流会

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

高齢による聴力の低下は本人でさえも気づきにくく、周囲の人も見落としやすいものです。今まで明朗だった人も、聞こえにくいため人と会話から離れ、引きこもりがちになります。25年度前半は高齢者の集まる施設での説明会や交流の場にOHP（オーバー・ヘッド・プロジェクター）による文字での情報提供を行うことで、周囲の状況が掴め交流の輪に入っていけるよう支援しました。

更に後半は、高齢難聴者に関わっている施設の相談員を対象に高齢難聴当事者からの聞こえ方の実態や、どう対応すれば高齢難聴者が戸惑わず理解しやすいかの具体策を共に学ぶ研修会を行いました。



ノートテイク利用で相談員の研修

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

補聴器装用者は、大勢の人が集まる場やマイクを通して聞く音は雑音も増幅され聞こえにくいものです。今回、施設での利用説明会にOHPによる要約筆記を付け、話しの内容を要約（ポイントを押さえた情報）しました。文字で表すことで「内容がよく解った」「話がまとまっていて理解しやすかった」等感想が多く出されました。特に耳の不自由さがない方々にも、情報を文字でゆっくり確かめられる要約筆記は「内容を確認できて良かった。」との声もありました。

更に、後半に実施した職員対象の研修は、「高齢難聴者の聞こえ方など、その状態が理解できどう対応すべきかの方法も知ることができ大変有意義であった」と評価され、当事者支援だけでなく周囲の人たちへの理解を深める必要性を改めて感じました。

■今後の活動の抱負について

今年度の後半に実施した職員対象の研修は、高齢者をサポートする上で非常に意義のある内容と感じました。その理由は、その年代の感じる不自由さは、その歳に到達して初めて実感するものでしょう。当事者の感覚・経験を知るとは、介護する側にもイメージしやすく思いやりある対応につながると思います。この高齢難聴者を支えるための環境づくりを今後もできるだけ多く続け、啓蒙していきたいと思えます。同時に文字情報の大事さにも繋がることと期待しています。

■問い合わせ先：理事 金田 敏子（かなた としこ）

TEL：047-432-8039

E-mail: ccnk@kzd.biglobe.ne.jp